

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成16年12月9日(2004.12.9)

【公表番号】特表2000-514413(P2000-514413A)

【公表日】平成12年10月31日(2000.10.31)

【出願番号】特願平10-500173

【国際特許分類第7版】

C 0 7 C 229/22

C 0 7 C 59/285

C 0 7 C 227/18

【F I】

C 0 7 C 229/22

C 0 7 C 59/285

C 0 7 C 227/18

【手続補正書】

【提出日】平成16年4月20日(2004.4.20)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

## 手 続 補 正 書

平成16年4月20日

特許庁長官 殿

## 1. 事件の表示

平成10年特許願第500173号

## 2. 補正をする者

名 称 シグマータウ インダストゥリー ファーマチェウティケ  
リユニータ ソシエタ ペル アチオニ

## 3. 代理人

住所 東京都港区赤坂1丁目9番20号  
第16興和ビル8階

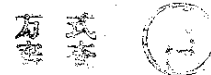
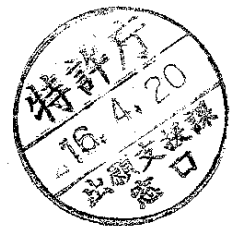
氏名 弁理士 (~~12378~~) 宮崎 昭夫  
C 378  
電話 03-3585-1882



4. 補正対象書類名 請求の範囲

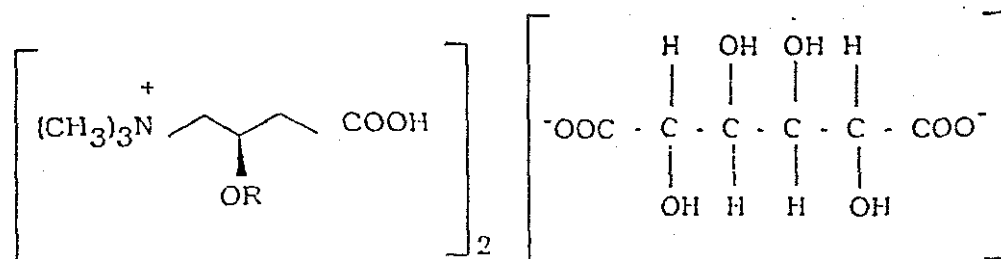
5. 補正対象項目名 請求の範囲

6. 補正の内容 請求の範囲を別紙のとおり補正する。



## 請求の範囲

1. 式 (I) を有する塩：



(I)

(式中、Rは水素又は炭素原子数2ないし12の直鎖または分枝アルカノイル基である)

2. 該アルカノイル基が、炭素原子数2ないし5の低級アルカノイル基である請求項1記載の塩。

3. 低級アルカノイル基がアセチル、プロピオニル、ブチリル、バレリルおよびイソバレリルより選択される請求項2記載の塩。

4. ムチン酸L(−)カルニチン(2:1)、アセチルムチン酸L(−)カルニチン(2:1)、プロピオニルムチン酸L(−)カルニチン(2:1)およびイソバレリルムチン酸L(−)カルニチン(2:1)からなる群より選択される請求項1ないし3記載の塩。

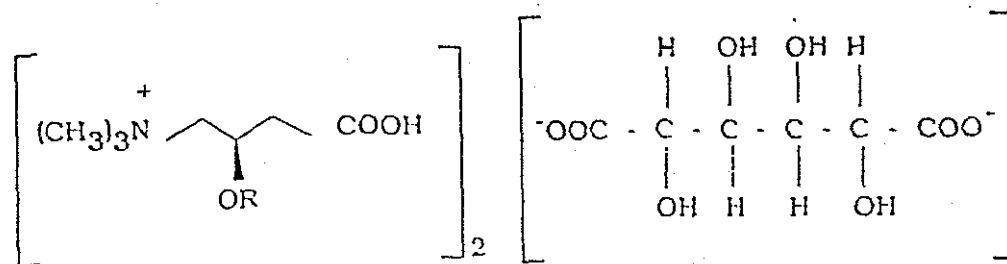
5. (a) 室温にてL(−)カルニチン内部塩またはそのアルカノイルが前記定義に同じであるアルカノイルL(−)カルニチン内部塩を、必要最小量の水と混合してペースト状または半液体状スラリーを得；

(b) 室温にて該スラリーにL(−)カルニチンまたは前記アルカノイルL(−)カルニチン内部塩の1/2モル量であるモル量のムチン酸を加え、十分に反応混合物を混合し；

(c) 該反応混合物を50%以下の相対湿度下に放置することにより該反応混合物の凝固/脱水を行うか、もしくは乾燥手段によりそれらの凝固/脱水を促進させるかし；

(d) 次いで所望により凝固した反応混合物を粉碎し、該塩を粒状又は粉体製品とし

て供することを特徴とする式 (I) :

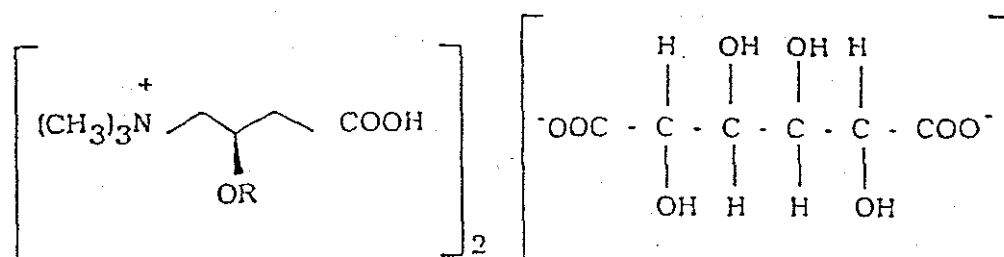


(I)

(式中Rは水素または炭素原子数2ないし12、特に2ないし5の直鎖または分枝アルカノイル基である) で示される塩の製造方法。

6. 乾燥手段が連続乾燥機、バッチ乾燥機、ターボトレイ乾燥機、直熱回転乾燥機、ドラム乾燥機、ベルト乾燥機、噴霧乾燥機、および流動層乾燥機より選択される請求項5記載の方法。

7. 式 (I) :



(I)

(式中、Rは水素または炭素原子数2ないし12、特に2ないし5の直鎖または分枝アルカノイル基であり、所望により、薬理学的に許容される賦形剤である) を有する塩を含有する固形の経口投与可能な組成物。

8. 医薬組成物、OTC組成物、健康食品、医療用食品、栄養食品、食餌療法補助剤、栄養補助剤、家畜用製品または飼料としての請求項7記載の組成物。

9. 錠剤、チュアブル錠、丸剤、ペレット剤、トローチ剤、カプセル剤、粉剤または顆粒剤の形態の請求項8記載の組成物。

10. それぞれ50ないし1000mg、好ましくは100ないし500mgのL(−)カルニチン内部塩またはアルカノイルL(−)カルニチン内部塩に相当する量の式(I)の塩を含有する単位投与形の請求項7ないし9記載の組成物。